

応援が育ててる地域の誇り

スポーツ振興

モンテディオ山形・
山形市役所サポーターズクラブ

佐藤 正紀



昨年の十一月十八日、山形県運動公園陸上競技場は、一万七千人を超えるモンテディオサポーターでわきかえっていた。このゲームに勝てばJ1に昇格できる。つい数カ月前までは思いも及ばなかったJ1への夢が現実のものになろうとしていた瞬間だった。

J2のモンテディオは、このシーズン、後半からほとんど勝点を重ね、この日の最終節を二位で迎えていた。三位のベガルタ仙台との勝点差はわずかに一。J1昇格は二位以内が条件である。このゲームを九十分以内で勝てば勝点三が加わり、仙台の成績に関係なく二位が確定する。逆にモンテディオが九十分以内で勝利できなければ、仙台が二位になる可能性が出てくる。自力でJ1をつかみ取るには九十分以内の勝利が絶対条件であった。

対戦相手は元モンテディオ監督の石崎信弘氏率いる川崎フロンターレ。ゲームは最初からモンテディオペースで進んだ。二十三本ものシュートが次々に放たれたが、ゴールは遠い。時間だけが無情に過ぎ、九十分以内の勝

利をつかみ取ることはいかにできなかった。一方同時刻、仙台は京都との対戦で九十分勝ちを納め、この時点で二位を確定した。延長戦に入ったモンテディオの選手たちに戦う気力は残っていなかった。開始直後に相手からVゴールを決められ、J1昇格の夢は次のシーズン以降に持ち越された。

モンテディオ山形は、八四年にNEC山形の社内同好会からスタート、九六年にチーム名をモンテディオ(山、神を意味する造語)山形に変更し、経営母体の社団法人を設立の後、九九年からJリーグが1、2部制に移行したと同時に、J2に参入した。しかし、戦績は残念ながら、この年は十一チーム中七位にとどまり、二年目も十位と低迷を続けた。

観客数は、浦和など有名チームとの対戦を除いては二、三千人程度だった。勝てないチームに観客は集らず、職場で前日のゲームが話題になることはほとんどなかった。観客席は熱心なサポーターに支えられてはいた

が、地域全体のチームといえる状況ではなかった。

J2参入三年目、柱谷幸一監督を迎えたこの年、終盤順位を上げるにつれ観客数も増えていった。十月十三日の仙台戦では一万二千人を超えた。その後の三戦も五千人前後を集め、職場でも次第に話題にのぼるようになっていった。最終戦にはスタジアムに行つて応援したいという声を数多く聞くようにもなり、地域全体のチームになっていく可能性を感じた。そして、最終節の一万七千三百九十六人の大観衆へとつながっていったのである。

J1を逃したショックは大きかったが、職場ではモンテディオのことが大いに話題になった。「勝利を願っていたが、本当のところは、このままJ1へ昇格してやっていけるのか心配だった。負けて良かったのではないかと」という声が多かった。それは、戦力、運営費、そしてサポーター体制つまり観客数が不十分であることを指摘するものであった。



昨年最終節 スタンドを埋めたサポーター
(©SPORTS YAMAGATA21)

有の財産として長く続いてほしいとも思っ
た。

十一月の下旬になり、職場に「サポーターズクラブ」を作ろうと活動を始めた。目的は、山形スポーツ二十一世紀協会の正会員になり資金面からサポートすること、全会員が賛助会員になり、競技場で観戦することで観客数の増加につなげることに絞った。

今まで競技場に行ったことのない人も含め、幅広い人たちから会員になってもらおうと、目標会員数を百五十人、会費を一人年間一万円と定めた。ポーナス時期でもある十二月中に会員募集した結果、目標を上回る百七十五名が趣旨に賛同し入会してくれた。明け一月十五日、金村GM、柱谷監督、高橋、鈴木両選手など多数の関係者を招いて設立総会を開催することができた。

今シーズン、「クラブ」は「ねっづく守れ！おそれず前へ！」の横断幕を作成し、数回の観戦会を開催している。今年こそJ1に行っても恥ずかしくない観客数、毎ゲーム一万人を期待した。しかし、初戦こそ五千人を超えたものの、これまでのホーム七戦平均は三千八百人、残念ながら昨年平均の四千三百九十一人にも達していない。その意味で、私たちの活動も含め、サポート体制が十分に強化されたといえる状態ではない。

五月十二日、新潟市陸上競技場に仲間と応援に出かけた。この日の観客数は一万三千人。対戦相手のアルビレックス新潟は、ホーム七戦の平均観客数が一万八千人を超えている。現在新潟は二位を確保している。チームが強

くなれば、観客も集まることは確かにある。協会も将来のチーム強化のため、今シーズンからモンテディオに山形出身選手を送り出せる体制をめざし、ジュニアユースチームを立ち上げた。運営費が少なくても勝てるチームを作るチャレンジが始まった。そう遠くない将来、J1の上位となり、選手の半数が山形出身で、その中からワールドカップの選手が生まれるという夢も叶うかもしれない。

しかし、たとえチームの成績が良くないときでも応援はチームを押し上げる。今、私たちにできることは、一人でも多く競技場に行つて応援することである。会員にも毎回呼び掛けていきたいと考えている。他の職場や地域でも同じような活動がどんどん出てくれれば、常に一万人の観客を集めることも決して不可能なことではないと思う。山形という地域を大切に、愛着と誇りを持って生きていくためにも、モンテディオが強いチームとなり、この地域になくてはならない存在として定着することを願っている。そのために私たちの「クラブ」も熱く息の長い応援活動をしていきたいと考えている。

佐藤 正紀

モンテディオ山形・山形市役所サポーターズクラブ幹事長。
山形市企画調整部企画調整課広域行政推進室広域行政推進担当主幹。
1953年 天童市生まれ。1965年山形市に転居。
1972年 山形市立商業高校卒業。山形市職員採用、市民税課に配属。以降、べにばな国体事務局、都市計画課等を経て、1998年より現職。
2001年 サポーターズクラブ設立と同時に幹事長。